

目次

時代（次代）を担う作業療法士へ・・・・・・・・上遠野純子
宮城県作業療法学会報告①・・・・・・・・川村謙吉
宮城県作業療法学会報告②・・・・・・・・安部奈々恵

職場紹介・・・・・・・・佐藤友佳
3年目のつづき・・・・・・・・安部尚斗

◆時代（次代）を担う作業療法士へ◆

一般社団法人宮城県作業療法士会 会長 上遠野純子

新年あけましておめでとうございます。旧年中は会員の皆様には大変お世話になりました。東日本大震災から2年10ヶ月が過ぎ、私達は、作業療法が地域住民の自立生活を支える有効な手段となり得ることを、震災後の様々な活動によって気づくことが出来ました。悲しい出来事ではありましたが、その中での経験が、私たちをより成長させてくれていることを実感しております。

さて、宮城県作業療法士会は発足30周年を過ぎ、昨年6月には30周年記念講演会ならびに記念式典、祝賀会を開催し、宮城県、仙台市をはじめとし、関係団体の方々のご臨席も賜り、我々の活動の新たな節目に多くのエールを頂戴しました。この節目にあらためて、我々の諸先輩が県士会活動の形をこれまで懸命に作って下さったことに感謝しつつ、それを礎に、私達は新たな県士会活動のあり様を形成して行く必要性も感じた次第です。

私は、この3年間作業療法士の養成校の教員として未来の作業療法士を育成するにあたり臨床の方々と、どのように若い人材を育てて行くべきかを話す機会を多く与えて頂きました。そこで私自身が学生の育成について考えていたことは、現状に妥協せず、常に何事にもチャレンジする姿勢を持ち、失敗を恐れず、粘り強く物事に取り組むことが出来る人材を多く輩出して行きたいということでした。私の技術・知識の伝承はままならず、多くの時間は、臨床現場の作業療法士の方々おひとりおひとりの後押しがあってこそ、若い学生達はこの3年間で大きく成長してくれました。しかし加えて、その後の卒後教育の重要性をあらためて再認識した3年間でもありました。時代のニーズは、めまぐるしく変化し、臨床現場で求められる人材は、養成校在籍中のみで育成出来るものではありませんでした。私が臨床で身を置いていた身体障害領域でもこの10年間の中で、例えば呼吸リハビリテーションにおける作業療法士の行う治療的エビデンスは、大いに進化してきました。これはすべて、臨床における対象者との関わりとその研究成果を我々が事例検討等で世に示し続けたためです。そのような卒後教育での取組としての学会運営や研修活動等県士会活動の果たす役割は大きく、時代を先取りし、会員の臨床現場で求められるニーズに、的確に对应して行くことが出来る研修システムのありようをこの1年間で作って行こうと思います。そのためにも、県内の多くの関係機関との連携と協働、そして会員の皆様のご支援をお願い申し上げます。次代を担う作業療法士育成のため県士会は頑張っています。本年もどうぞよろしくお願い致します。

◆第 15 回宮城県作業療法学会報告①◆



第 15 回宮城県作業療法学会を終えて

第 15 回宮城県作業療法学会 学会長 川村謙吉

学会当日の朝、国見近辺は強風が吹き荒れ、JR 仙山線が動くのか非常に心配したのですが、実行委員と参加者の思いが通じたのか、無事開催することができました。学会参加者は153名で、参加職種は理学療法士、介護士、保育士、福祉用具専門員、一般市民、学生など幅広く参加していただきました。今学会は、地域支援に関わる方に実行委員と発表者になっていただき、まさに、みやぎオールスターズで臨んだ学会でした。

実行委員は、皆とても熱い思いを持っている方ばかりで、「地域支援の必要性を感じていただけること」、「福祉機器を体感し、業者にも喜んでいただけること」、「実行委員も楽しめること」「若いOTに気づきの機会を提供すること。」をコンセプトに、みんなで作りあげました。参加者のアンケート結果から学会を振り返ってみると、「OT」を他者へ伝えるためには、自分自身がOTとしての役割を明確にしていなければならないと感じた。」「訪問リハに関わっていると入院中と在宅でギャップを感じる。その差を埋めることの重要性を改めて感じた。」「実際に機器に触れて体験することで患者さんの気持ちや便利さがわかった。これから患者さんに合った機器を提案したい。」「各領域での特徴、役割を改めて学ぶことができた。また、地域へ戻る患者様のためにも連携をとれるようになりたい。」「地域で活躍できるOTになるために、地域から求められているOTの役割を知り、考えることができた。」

などの意見をいただくことができ、開催までの努力が報われたような気がしました。朝から夕方まで目一杯のスケジュールであったにもかかわらず、最後まで熱心に聞いていただきましたが、プログラムを少し詰め込みすぎたため、発表時間が短くなったことやフロアとの会話が十分できなかったことは、今後に活かしていただきたい反省点だと思っています。

本学会を通じてOTの底力と可能性を再認識できたことは、これからの地域支援を考える上で大きな収穫でした。次年度は、大貫学会長のもとでの開催となります。ぜひ、みなさんの協力で宮城県の作業療法を盛り上げていきましょう。



◆第15回宮城県作業療法学会報告②◆

実行委員を通して

実行委員 安部奈々恵

私は実行委員において、学術部の指定演題を担当させていただきました。本学会の導入である指定演題のテーマを決めるにあたっては、学会テーマである、“地域”ということに対して、どうしたら若いOTが重要性に気付き、きっかけやイメージをもっていけるか、ということを中心に話し合いが進められました。OTに対する熱い想いも語られつつ、話し合いの結果、一步踏み出したり新しい視点を持つように、テーマには“地域への扉”という言葉を選びました。学会当日には、依頼した先生方より、地域においてOTとしての役割を担う為のヒントとなるような講演をいただくことができ、参加者からは、「興味を持った」「知らないことがたくさんあることに気づくことができた」等と話があり、きっかけ作りとなる内容にすることができたかと思えます。

また、今回の実行委員は“地域”ということに対して様々な立場で働くOTが多く、話し合いで出る個々のOTの話を聴き、情報交換の機会ともなり、私自身とても勉強になりました。

実行委員としては学術的なことや運営についてわからないことが沢山あり、なかなか自発的に仕事をすることができませんでした。川村学会長や大貫実行委員長を始め、大先輩方に引っ張っていただきながらとても楽しく仕事をさせていただきました。

また機会があれば、是非やりたいと思える実行委員会でした！



<福祉機器展の様子>



◆職場紹介◆

セントケア訪問リハビリステーション石巻あけぼの

佐藤 友佳

【施設紹介】

《リハビリスタッフ数》 作業療法士 3 名、理学療法士 1 名

《OT 業務内容》 訪問リハビリテーション（介護保険）、リハビリ支援事業

《対象疾患》 脳血管障害後遺症、廃用性症候群、変形性膝関節症 など

《セントケア（石巻圏域）での他サービス》 訪問介護、デイサービス、訪問入浴、居宅

【当ステーションの紹介】

宮城県高齢者福祉復興推進事業として、平成 25 年 1 月 1 日にセントケア宮城株式会社が訪問リハビリステーションを開設しました。地域の病院の先生方にご協力いただき、密に連携を取って訪問リハビリを進めています。

訪問エリアは石巻市と東松島市です。震災後の環境の変化により生活不活発病をきたし、要介護状態となる方が増加しています。生活不活発病の悪循環を断ち、状態の悪化を防止出来るようにサービスを提供しております。そして、ご本人様がお家で自分らしい生活が続けられるように、介護に追われるご家族様が生活に安心感を持てるようなケアを提供しています。また、石巻圏域の変化していくコミュニティの中で継続した関わりを持てる存在になれるように、と考えております。介護保険での訪問の他に、宮城県復興基金の事業に基づき、石巻市や東松島市と連携の上、リハビリテーション支援事業も行っています。その中では、看護協会や市の保健師と連携をとりながら被災者の方のリハビリ相談（体力測定や体操・個別相談）や戸別訪問も行っています。

併設されているデイサービスではクラブ活動（手芸・陶芸・料理・木工等）に力を入れており、また鳴子温泉のお湯の日もあり、お客様に喜んでいただいております。



<住所>

〒986-0866 宮城県石巻市茜平 2 丁目 1-7 TEL0225-22-1061 FAX0225-22-1057

セントケア訪問リハビリステーション石巻あけぼの（セントケア石巻あけぼのデイサービス内 2 階）

◆ブロック活動報告◆

石巻ブロック

吉崎 勝哉

平成 26 年もついに幕開けしましたねえ…寒さもかなり厳しくなっておりますが、会員の皆様にはお変わりありませんか？昨年は我等が楽天イーグルスが優勝し、震災以来今ひとつ心の晴れないこの東北地方に、勇気と活力を与えてくれました。宮城県士会も楽天パワーにあやかって活力ある平成 26 年にしていきたいものですね。

さて石巻からの寄稿は平成 23 年の震災後以来でしょうか？大変ご無沙汰しておりました。まずはその後の石巻です。復旧に関しては未だ仮設住宅暮らしを余儀なくされている方が約 1 万 5 千人（石巻市）いらっしゃいますが、多種多様な業種の方々の参入や支援・援助団体の皆様のお蔭もあり、市民生活そのものは震災前同様の状況まで回復したとあってよいのではないのでしょうか。また頭痛の種であった瓦礫処理も 7 割近く進み、各種インフラ再整備が計画から実行の段階に入ったところです。復興に関して復興公営住宅の整備がやっと部分的に始まり、各種補助金交付や復興特区等を活用した産業復興も官民一体で進行中です。このように一步一步ではありますが石巻の再生に向け歩みを進めている状況です。

石巻ブロックの各病院施設も今では落ち着きを取り戻し、少しずつ震災前のブロック活動に戻りつつあります。今年度は昨年までで 3 回の活動をおこなっておりますが、うち 1 回は今後の活動に向けてのリセットの意味合いを込めて各病院施設代表者の面々にお集まり頂き基本的な活動方針を再確認しました。その後の 11 月定例会は久しぶりの症例発表会となりました。演題は 2 題と少なめではありましたが、いずれも OT らしさの滲み出る素晴らしい発表でした。震災という厄難に見舞われはしましたが平成 10 年に石巻地区 OT 会として発足以来、石巻の OT はその会員数だけではなく質的な面でも一步一步、しかし確実に力をつけてきていることを実感する機会となりました。今後も石巻ブロックはこの石巻地方の復興と共に着実に前進していきます!!イベントは他ブロックからの参加も大歓迎です。時間が許せば是非足を運んで頂き石巻の変わりゆく様を共に体感して頂けたら幸いです。

◆つぶやきコーナー◆

O T 3年目になって

仙台西多賀病院 安部 尚斗

今年度の春から3年目を迎え、来年度からは4年目となります。学生の頃は、4年目といえば一人前というイメージがあり、憧れも感じていました。しかし、私自身は毎日バタバタ過ごし、一人前どころか半人前にも満たないと痛感します。

O T一年目を迎える前に、東日本大震災により就職の内定先が被災。すぐに新しい就職は決まりましたが、高齢期、重度認知症という私の希望とは違う領域で、戸惑いもありました。それでも先輩方に恵まれたおかげもあり地域生活支援のやりがいや難しさを学ぶことができたと思います。それからは、やってみるとどんなことでも面白さがあると感じ、いろいろな領域へも興味を持つようになりました。

少しタイミングが早いとは思いつつ、1年目の終りに整形外科、小児科、神経内科病棟のある病院へ転職。そこで重症児や筋ジストロフィーを持つ方たちと出会い、私はここで「何ができるのだろうか？」と悩む日々が続きました。しかし、周囲の支えもあり、患者様と向き合っていくうちに、「なにをやってもいいのでは？」と考えるようになりました。それから、環境調整などを通し、患者様のできることを、まず1つ増やすことを目標に実践してみました。すると、「パソコンができる」「絵がかける」「音楽ができる」…。多くの「できる」と出会うことができ、そこには個性がありました。個性を通して周囲との関わりもでき、新たな興味へと繋がり、その人の日々の生活に色をつけることができる。O Tって面白い！そう思えるようになったと今は感じます。上手くいかないことも多くあります。力不足を感じることは日常茶飯事ではありますが、探究心を持ち、今後もO Tを楽しんでやっていきたいと日々強く思います。

そして、今、私がこのように考えられるようになったのは、先輩方に恵まれたことが大きくあると思います。やりたいことに対して背中を押してくれたり、アドバイスをくれたりと、本当に助けられていると感じます。私も来年度からは4年目を迎え、後輩には、これまで先輩方にしていただいたようにできたらと思います。しかし、まだ後輩はいないので、まずは後輩ができたらと思います。

編集後記

みなさんこんにちは。久しぶりの登場となる三宅です。広報部の活動で存在感を消す間に、二児の父となりました。最近、学生時代から続けているフットサルに夢中になりすぎて、家でも存在感が消えかかっています…こんな私ですが、最近になり仕事が楽しくなりました(私を知っている人なら驚くはず…)。休日はフットサルだけではなく、研修等に沢山参加し、勉強しております。それも、職場の同僚や先輩に恵まれ、切磋琢磨できる環境が身近にあるからだと思います。この出会いに感謝ですね。皆さんも、頑張って作業療法を盛り上げていきましょうね。三宅